

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

令和7年7月

妙福寺保育園 うめ組（5歳）

## 1. 活動テーマ 「水」

- ・水の性質の面白さ、美しさ、不思議さに気付く
- ・三原色から様々な色が生まれることに気付いて楽しむ

梅雨の時期で水遊びに適した気候になり、水に触れ合うことが増えてきているため、水の活動を通してさらなる発見や探究をして欲しいと思いこのテーマにした。

## 2. 活動スケジュール

令和7年6月～令和7年7月

- ・水はどんなところにあるか考える ・水を弾く葉っぱを探す
- ・砂と水を混ぜる ・水に色を付けてみる ・色水遊び
- ・絵の具を溶いた水を使ってにじみ絵を楽しむ ・水運びリレー
- ・雨水集め、観察 ・様々な素材に雫を垂らす

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

プラスチック容器を用意して、子ども一人ひとりが好きな容器を使って雫集めができるようにした。葉っぱや布・紙などの様々な素材に水を垂らすことができるようにスポイトを用意した。にじみ絵では、ポリ袋をシート状にしたところにスポイトで絵の具を垂らし、上から障子紙をおいて色が紙に移っていく様子が見られるようにした。また、三原色の色水を一人一つ持ち、乾杯後に友達と混ぜる合わせる遊びをした際には、あらかじめ瓶や色水を用意するようにした。作った色水を鑑賞できるよう、小さいボトルも置いておくようにした。

## 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

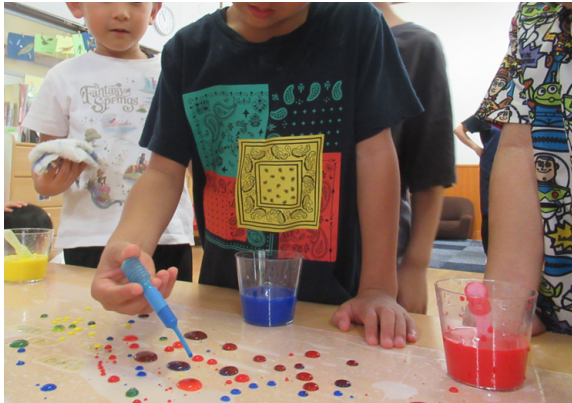
戸外で水遊びを行い、種類の異なる葉っぱにスポイトで雫を垂らしてみた。その輪が広がっていき、子どもたちが自ら「あっちの葉っぱはどうだろう」と別の葉っぱを取ってきて試す様子があった。水を弾くものと弾かないものを探して楽しんでいた。

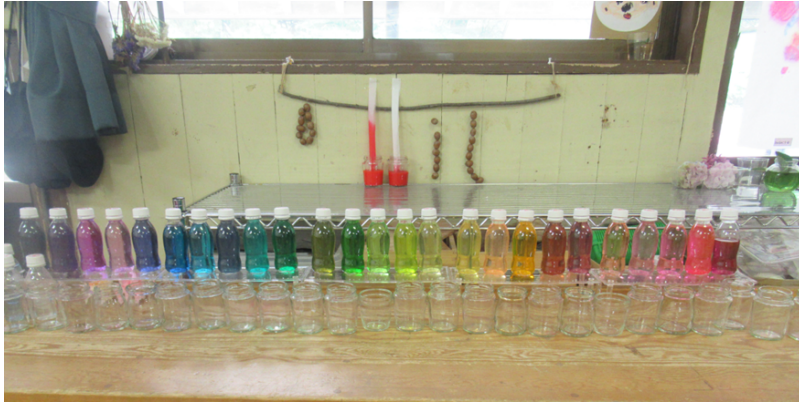
テーブルに敷いたビニールに絵の具を溶いた水を垂らしてにじみ絵を行った。順番に垂らしていき、友達が垂らした色の雫とくっ付いたり、色が混ざったりすることを喜ぶ様子があった。その後、その上から障子紙をおいて紙に移る様子とにじんでいく様子を観察した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

水を弾く葉っぱがあることに気付くと、子どもたちが自発的に別の葉っぱに雫を垂らし始めていた。発見したことを保育者に伝えて別の葉っぱでも試そうとする姿があった。水性ペンを使って色水作りをした際には、作りたい色に近付けるために工夫したり、作った色水を鑑賞したりする姿があった。「コーヒーみたいだね」「この色に似てるね」等子どもたち同士も会話が生まれていた。







## 5. 振り返り

子どもの興味関心に応じて活動の内容を見直し、子どもたちと一緒に作り上げていくことでより活動が深まり、探求心に繋がっていくことを感じた。小雨の時は雨集め、大雨の時は音を聴いてみる、室内の時は色水や雫リレーなど、水の関わり合いは場所や環境によって様々な方向へ広がっていく可能性があると感じることができた。また、水を集めた後にその水に色を付けたり、乾杯してから自分の色水と友達の色水を混ぜたりしていくことで活動のバリエーションが増えていき、子どもたちの好奇心も増していくのを感じた。作った色水をボトルに入れて窓際に飾った際には色によって光の通し方に違いがあることに気付く姿が見られた。色水を作って終わるのではなく、鑑賞できるようにディスプレイすることで「できている色と被らない色水を作りたい」「トマトみたいな色を作りたい」など新たに生み出すことに挑戦する姿があった。